

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	一般社団法人幸樹会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護さんしょう
所在地	(〒270-2254) 松戸市河原塚 411-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

在宅生活を望む、癌末期や医療ニーズが高い方、重度な要介護者が、地域で暮らし続けることができるよう支援しています。

また、社会復帰や、家庭での役割を見出すために、医療・福祉を統合したケアを家庭的な雰囲気のもとで提供し、残存能力の十分な活用と自主性を尊重したケアを心がけています。

また、地域に開かれた事業所として、2ヶ月に1回、「地域交流カフェ」を行っており、利用者・家族・地域の皆さんに参加いただいております。その他、広報誌「幸樹」やホームページによる情報提供、学習会やイベントを行なっていく中で、地域の方々にも「看多機」のサービスを広く知ってもらい、交流を図っております。

そのような活動を行ってきたことで、様々な機関・個人との繋がりができつつあり、利用者への「切れ目のないサービス」が提供できている。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2017 年 9 月 7 日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	--------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2017 年 10 月 17 日	出席人数 (合計)	(12) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (0 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (0 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (3 人) <input type="checkbox"/> その他 (3 人)			

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	事業理念等についての理解に個人差があり、その実践において、統一されていないことも見受けられる。 情報収集ができていても、非効率に集約していることで、迅速な共有が図れないことも散見される。	事業理念等について職員がその内容をより深く理解し、実践できるよう、理念等の説明文書を配布し改善の一步とした。 また、情報の共有化・一元化を図っていくなどもあわせて、具体的な改善策を実施していく。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	ご本人・家族と共に、介護職・看護職・介護支援専門員が、共通した目標を設定し、一定期間ごとに達成度の確認やプランの見直しを行う必要がある。	直接担当している職員だけでなく、国際生活機能分類(ICF)の活用に熟達するよう学習を強化し、それを共通言語として、看護・介護・ケアマネが情報を共有し、専門性を活かした計画作りを行い、全職員が各利用者の目標に向かって支援できるよう、活動を前進させる。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	看護師とケアマネジャーは他機関・多職種と連携する機会が多くなるが、特に介護職が参加する機会は少なかった。	今後、積極的に参加する機会をつくり、介護職も在宅生活への移行支援等がスムーズに行える力をつけるよう努力する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	地域交流カフェや自主学習会等において、相談を受け付け、情報提供・意見交換をしている。	今後も、介護力を引き出す・向上させるための情報提供も引き続き行っていく、地域の人々が安心して暮らせるまちづくりの一翼を担えるようにしたい。より多くの方々が参加できる工夫をする。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	さんしょうは、医療依存度が高い方々、在宅看取りの希望者等が在宅生活を続ける支援で、重要な役割を果たしてきた。	今後も、医療・看護・介護で連携し、より機能を強化し、在宅ケアの中心として支援に取り組んでいく。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します